



セッションの進め方

ウッドバッジ研修所課程別研修 VS 課程茨城第1期

§ 1 年代の特性とプログラム

29年9月17日(日) 1000~1100(60分)

担当 伊澤 清実

◎ 目標

- 1 ベンチャースカウト年代の青少年の特性を理解する
- 2 ベンチャースカウト年代の青少年を取り巻く環境を理解する。
- 3 ベンチャー部門の教育、活動の目標を理解し、スカウトの興味・関心事をプログラムに昇華できる。

◎ ねらい(ポイント)

- 1 ベンチャースカウト年代の青少年の共通する特性についてその概略を理解させる。
- 2 現代の青少年の生活様式、行動形態、考え方、興味などに見られる傾向などについて理解させる。
- 3 中学校3年生9月以降から18歳に至る年齢差による意識、行動の違いを理解させ、これらは青少年の置かれている社会的背景が色濃く反映することを理解させる。
- 4 興味、関心は彼らの行動の原動力となるものであり、これを把握しプログラムに反映させ、活動を通して個人的成長を促すことを理解させる。

◎ 所員の仕事(依頼事項)

チューターへ：作業における助言や例示。方向がそれた場合の修正。

◎ 準備品

参加者：日本連盟規程集、ベンチャースカウト隊長ハンドブック

◎ セッションの展開

1 導入(5分)

自己紹介

セッションの概要について説明。

ベンチャー年代の特性について、隊長HB(P11~16)により、理解を深める。

新しい自分を作る時期

- ① 肉体的成熟
 - ・ 第二次成長
- ② 精神的成長
 - ・ 不安定方安定
 - ・ 葛藤から反省的思考へ

このセッションでは、ベンチャー年代の特性、現在の青少年が置かれている社会的背景が彼らの行動や考え方、行動、価値観の影響することを理解する。

また、この部門の教育の方法を学習する。

2 展開(55分)

(1)ベンチャースカウト年代の青少年の特性について

○何人かに、下記事項について質問し、事前に参加者との共通認識を図る。

- (1)スカウトに関する事項
 - ・ 趣味・興味・関心事
- (2)保護者に関する事項
 - ・ どのような青年になってほしいか



セッションの進め方

ウッドバッジ研修所課程別研修 VS 課程茨城第1期

①ベンチャースカウト年代の青少年が属する青年期(12歳～18歳)とは

- ・子どもからのおとなへの過渡期
- ・新しい自分を作る時期
- ・子ども扱いをされたり、大人扱いをされたりと心がゆれ動く時期
- ・知性の発達と心の発達が不均衡を生じ不安定な時期

②青年期の区分と特色

- ・ベンチャースカウト年代は青年中期に属する。

③青年期の発達の特徴

- ・身体の成熟
- ・精神的な発達
- ・親、教師、社会との関係
- ・規範意識
- ・ストレス

(2)ベンチャースカウト年代の青少年を取り巻く環境について

青少年は特に大人社会の動向について影響を受けやすく社会環境の変化に敏感である。また昨今の青少年を取り巻く環境はさまざまな様相を呈しており、ひとことではかたれないものとなっている。隊長として変化には対応しつつもいつまでも変化することのないことがら(不易流行)も十分理解し、スカウトを指導・支援することを強調する。

社会環境

青少年を取り巻く環境

(3)ベンチャー部門でのスカウト教育および活動の目標について

- ①各部門でのスカウト教育について説明し、そのねらいとするところを説明
- ②各部門の活動の目標を説明
- ③ベンチャー部門の活動の目標について具体例を用いて説明スカウト教育法
- ④ベンチャースカウト活動の実施について説明

(4)スカウトの興味・関心事からプログラムへ(講義)

- ①スカウトの興味・関心事をプログラムに発展させることが重要であることを説明
- ②次の例題について、スカウトの興味や関心事をプログラムに高めることを理解させる。

例題

あるスカウトから手作りの筏(いかだ)で湖を横断したいというニーズが出てきた。このニーズをプログラムに変えていくためにはどのようなことが必要か。

※スケジュール的なことは考えず、ニーズを満足させるために必要な事柄を話し合う

○ スカウト教委法と関連性がなければならない。

○ モチベーションを上げる

3 まとめ(10分)

- 1) ベンチャースカウト年代の青少年が「求めているもの」(ニーズ)を再認識し、隊指導者の役割を認識する。
- (2) 成長に従って、ニーズも活動も変化する。
- (3) 興味・関心は社会情勢、家庭環境、教育環境によって、大きく影響され、変化することを認識しなけれ



セッションの進め方

ウッドバッジ研修所課程別研修 VS 課程茨城第1期

ばならない。

- (4) 各スカウトの特長・短所・長所・特技・関心事に関する把握を行うことが重要である。
- (5) できるだけ青少年と接し、彼らとともに活動を経験することによって、彼らを知ろうとすることが大切であり、書籍より実際の体験を通して青少年を理解する態度が望まれる。

生田目より

- ①年代特性に於いて、不変な部分と年々変わる（変わりつつある）興味や特性について、できるだけ新しい情報を例示されながら、展開してください。
- ②ニーズの発意→プログラムまでの昇華において、スカウトのモチベーションをあげる部分につき宜しくお願いします。



セッションの進め方

ウッドバッジ研修所課程別研修 VS 課程茨城第1期